

消防車はどうして赤いんですか？

数年前、女性消防団員が保育園を訪問した際に、子どもたちからあがった質問です。そのときは、団員一同正解が分からず、顔を見合わせました。

答えは、「最初に日本で採用された消防車が赤かったから」です。他にも「目立つため」や「炎を連想させる色で火の用心を訴えるため」など諸説ありますが、現在は法律によって消防車は朱色にするよう定められています。

は昭和40年代には29台の消防車を所有していました。

現在は、34台の車両が牛久市消防団に配備されています。そのうち2台は消防団の本部などが現場に急行するための指令車で、1台は3・5トンの水を運べる水槽車、31台は分団の出勤に使われる消防車で市内の分団小屋に置かれています。近年は、分団配備の消防車に軽自動車が登場し、狭い道にも入って行けるため消防関係者から注目されています。

問 交通防災課 ☎内線1682



指令車



水槽車



多機能型消防自動車

前述の子どもたちの質問には同行していた当時の団長が回答しました。女性消防団員の主な活動は、防火意識向上のための啓発活動などですが、こうした日々の活動の中でもさまざまな知識を身に付けています。

消費生活センター だより

消費生活に関するご相談は牛久市消費生活センターへ

【相談日】 月～金曜日(午前9時～午後4時)

【問い合わせ】 牛久市消費生活センター ☎830-8802 FAX830-8803

悪質業者から

高齢者を守りましょう！

—9月はキャンペーン月間です—

9月は茨城県消費生活センター主催による「高齢者向け悪質商法・振り込め詐欺被害防止キャンペーン」が行われています。

高齢者の消費者被害には「だまされたことに気付きにくい」、「被害に遭っても誰にも相談しない」という特徴があります。悪質業者は高齢者の健康やお金、孤独などの不安に付け込んできます。これらの不安をおおる、または親切に接して信用させるなどその手口は巧妙化しています。

高齢者の消費者被害を防ぐためには高齢者はもとより、高齢者に接する機会が多い方々(ご近所、民生委員、ヘルパーの方など)に悪質商法に関する知識を身に付けていただくことが大切です。さらに高齢者の暮らしに変化がないかを見守っていくことも重要です。

皆さんのご理解・ご協力をお願いします。

